

## 熊本県山鹿市天岩戸岩陰遺跡出土の縄文晩期人骨

松下孝幸\*・松下真実\*\*

【キーワード】：熊本県、岩陰遺跡、縄文晩期人骨、土坑墓、女性骨、抜歯、未成人骨

### はじめに

天岩戸岩陰遺跡は、熊本県山鹿市菊鹿町(旧鹿本郡菊鹿町大字山内字鶴次郎)に所在する遺跡である。調査は1975(昭和50)年7月25日から11月10日まで実施された。この遺跡は、古閑三博・平島康弘(菊鹿町教育委員)・木庭春生(菊鹿町文化財保護委員長)によって、昭和49年11月に発見され、縄文・弥生時代の土器片が採集されている。本岩陰遺跡は、八方ヶ岳(1052m)に水源をもつ内田川の支流である山内川によって開析された谷の東側の凝灰岩壁に形成された岩陰で、開口は11.5m、奥行きは8mある。

この調査で、土坑墓と配石遺構が検出された。土坑墓は、長さ約80cm、幅55cmの楕円形で、深さは20cm程度であるが、削平されている可能性があるという。墓坑内からは人骨1体と数個の川原石、土器片が検出されている。土器片は縄文晩期黒川式に比定されており、人骨の所属時期は縄文晩期と推測されている(熊本県教育委員会、1978)。

本人骨は、熊本県文化財収蔵庫に保管されていたが、2016年4月に発生した熊本地震によって被災した。地震によって人骨が収納容器から飛び出し、人骨が破損した。筆者らはこの人骨のレスキューに向き、人骨の修復と保存処理をおこない、あわせて人骨の計測などをおこなった。本人骨についてはすでに報告されているが(内藤・他、1978)、詳しい計測値などが記載されていないので、今後の縄文人骨の研究に資するために計測や観察などをおこなったので、その結果を報告しておきたい。

### 資料

本遺跡から検出されたのは1体の人骨である。埋葬遺構は土坑墓で、埋葬姿勢は右を下にした側臥と推測されているが、その根拠が記載されていない。人骨は攪乱を受けており、顔面骨を失っているが、その他に寛骨が存在しない。また、不思議なことに左側腓骨は残存しているにもかかわらず左側脛骨がみあたらない。足の骨(足根骨、中足骨、指骨)についても中足骨が1本残っている以外は存在しない。実測図をみると人骨は相当ばらばらの状態で検出されており、寛骨が残存していないので、埋葬姿勢が本当に側臥だったのか疑問である。おそらく椎骨と上肢骨の検出位置から埋葬姿勢を側臥と推測したと思われるが、縄文時代早期の側臥例はあるが、縄文晩期の側臥例は聞いたことがない。側臥という埋葬姿勢は中世にみられる埋葬姿勢であるが、縄文早期の例も報告されており、一部近世にもみられる。本人骨は、下記の所見から壮年の女性骨と推測される。また、本人骨は供伴していた縄文土器から縄文時代晩期に属する人骨と推測されている。

なお、人骨を精査したところ、新生児か乳児のものと思われる肋骨1点と、それよりやや大きい幼児のものと思われる肋骨2点が残存していた。本来、本遺跡には成人1体と未成人2体(新生児あ

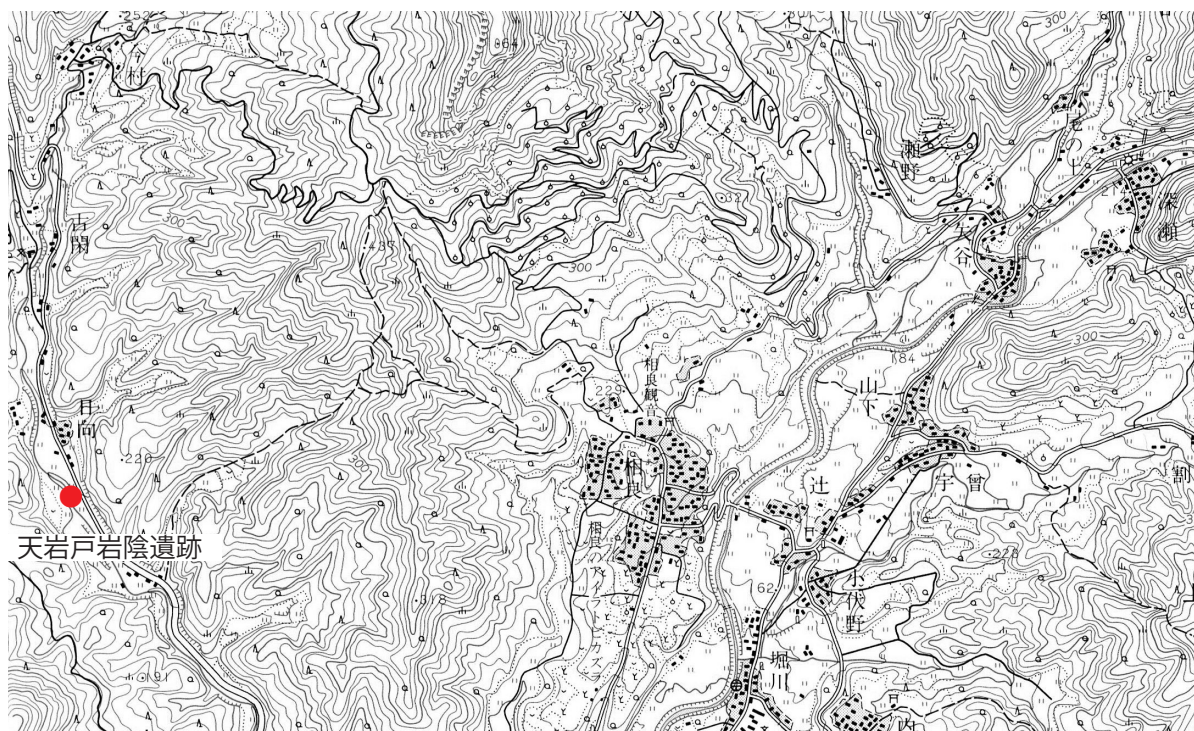
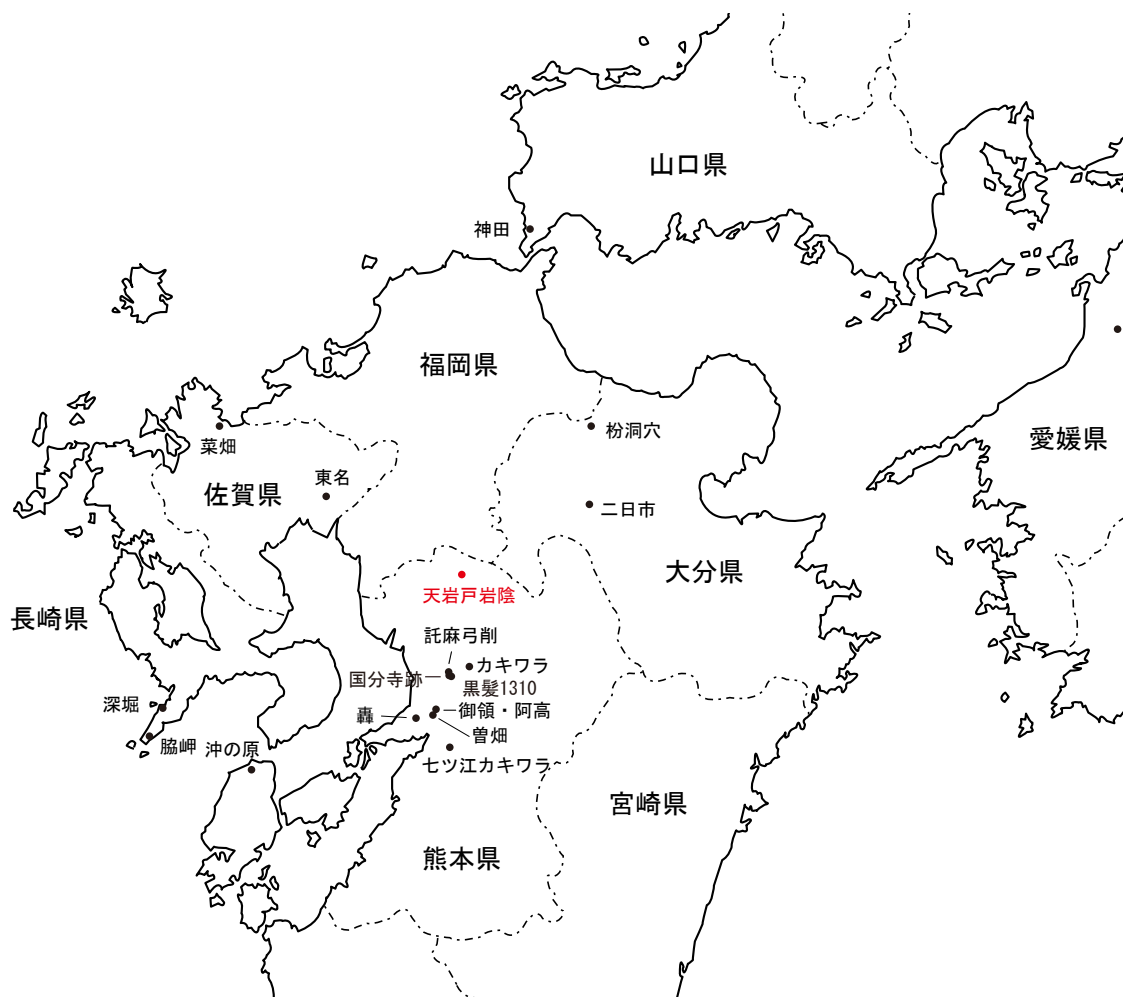


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Amanoiwatoiwakage site, Kashima City, Kumamoto Prefecture)

るいは乳児)の合計3体が埋葬されていたと思われるが、未成人骨は埋葬遺構が浅いために攪乱を受けやすく、本例も後世の攪乱を受けて、大部分の骨が失われたのであろう。攪乱によって散乱した人骨はとかく無視される傾向にある。しかし、人骨が検出されたということは、ここに埋葬されていた人骨があったことを示しているので、散乱人骨についても正しく評価しておく必要がある。従って、本稿では成人骨を1号人骨と呼称し、新生児骨(もしくは乳児骨)を2号人骨、幼児骨を3号人骨とすることにした。性別、年齢は表2に示すとおりである。また、年齢区分を表3に示した。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法(前縁がノギスの針の中央に位置するようにして計測)で計測した。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
0	1	0	2	3

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考(推定身長値)
1号人骨	女性	壮年	ほぼ埋葬状態で出土、土坑墓、149.41cm(Pearson、右)
2号人骨	—	—	新生児(もしくは乳児)の肋骨1点のみ
3号人骨	—	幼児	肋骨2点のみ

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳(第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳(第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳(蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳(40歳未満)
	熟年	40歳～59歳(60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

## 所 見

### I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

本例は報告書によれば側臥と記載されているが、寛骨が遺存していないことから確証はない。

### II 人骨の形質

各骨の残存部は図2に示すとおりである。また、計測値は文末に一括して掲げた。

## 1号人骨(女性、壮年)

攪乱をうけてはいるが、人骨の保存状態は良好で、大部分の骨が残存していたが、両側の寛骨と左側脛骨が残存していない。また、両側の足の骨(足根骨、中足骨、指骨)は中足骨が1本だけでその他の骨は残存していない。攪乱を受けた際に失われたものと思われる。

## 1. 頭蓋

## (1) 脳頭蓋

右側側頭骨、左右の頭頂骨、後頭骨が残存していたが、残存量が少なく接合できない。骨壁は薄い、骨質は堅牢である。外後頭隆起の発達はきわめて悪く、最上項線や上項線は不明瞭であるが、乳様突起はやや大きい。右側の外耳道の観察ができたが、骨腫は認められない。

縫合は、三主縫合のうち冠状縫合とラムダ縫合の観察ができたが、いずれも内外両板はまだ開離している。脳頭蓋の復元はできないので、計測はできない。また、観察によっても頭型を推測することはできない。

## (2) 顔面頭蓋

上顎骨、右側頬骨、下顎骨が残存していたに過ぎない。従って、眉上弓の様態は不明である。また、鼻根部の様態も不明である。

下顎骨は右側の下顎頭を欠損している以外はほぼ完全である。径はやや大きく、堅牢である。筋突起は大きく、咬筋粗面や翼突筋粗面の発達は良好で、下顎角は外反している。下顎体の高径は低く、下顎枝は幅広く、下顎切痕は浅い。

## 2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8	7	6	5	4	③	2	1		1	2	③	4	5	6	7	8
⑧	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8

〔●: 歯槽閉鎖 ○: 歯槽開存 /: 不明(破損) ▽: 先天性欠損、番号は歯種〕

〔1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小白歯、5: 第二小白歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯〕

下顎の右側第三大臼歯の歯槽は閉鎖している。未萌出か生前脱落の可能性がある。骨に稜線が走っている、生前脱落かもしれない。下顎左側第三大臼歯は水平智歯である。上顎左右の犬歯は風習的に抜去されている。咬耗度は Broca の1度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱い。上顎の左右の中切歯の舌側面には一条に走る溝が認められる。上下の歯を咬合させると、下顎の中切歯がちょうどこの溝に接している。歯の咬合形式は鉗子状咬合ではあるが、若干上顎歯が下顎歯にかぶさるような状態で咬合していたようである。また、下顎には、両側の第二小白歯の位置に大きな下顎隆起が認められる。

## 3. 四肢骨

## (1) 上肢骨

鎖骨、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

## ① 鎖骨

両側が残存していた。鎖骨は細くて長い。



## ②上腕骨

上腕骨の遺存状態は良好で、両側が残存していた。骨体は細く、三角筋粗面の発達は認められないが、骨体は扁平である。

計測値は、最大長が283mm(右)、(281)mm(左)、骨体最小周は54mm(右)、52mm(左)、中央周は57mm(右)、54mm(左)で、長厚示数は19.08(右)、(18.51)(左)である。また、中央最大径は20mm(右)、18mm(左)、中央最小径は14mm(右)、14mm(左)で、骨体断面示数は70.00(右)、77.78(左)となり、右側骨体は扁平である。

## ③橈骨

両側が残存していた。橈骨体は両側とも細い。

## ④尺骨

両側とも残存していたが、右側はほぼ完全である。尺骨体も細いが、近位1/3付近で鋭く突出しており、骨体はかなり扁平である。

## (2) 下肢骨

大腿骨、膝蓋骨、脛骨および腓骨が残存していた。寛骨は遺存していない。

### ①大腿骨

両側とも骨体が残存していた。骨体は細く、粗線の発達はそれほどよくはないが、骨体両側面の後方への発達は良好である。また、骨体上部は扁平ではない。

計測値は、骨体中央矢状径が21mm(右)、21mm(左)、横径は25mm(右)、25mm(左)で、骨体中央断面示数は119.05(右)、1190.05(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は良好である。骨体中央周は72mm(右)、74mm(左)で、骨体は細い。また、骨体上横径は25mm(右)、骨体上矢状径は23mm(右)、23mm(左)で、上骨体断面示数は92.00(右)となり、骨体上部には扁平性は認められない。

### ②脛骨

右側脛骨が残存していたが、左側は残っていない。脛骨体は細くて丸い。前縁は鋭くなく、鈍縁で、骨体は扁平ではない。ヒラメ筋線は窪んでいる。骨体の断面形はヘリチカのV型(後面が卵円形)を呈している。

計測値は、中央最大径が23mm(右)、中央横径は18mm(右)で、中央断面示数は78.26(右)となり、骨体には扁平性は認められない。骨体周は65mm(右)、最小周は62mm(右)で、骨体は細い。

### ③腓骨

両側の骨体が残存していた。腓骨体は細く、扁平である。溝形成は浅く、稜は鋭くない。

## 4. 推定身長値

上腕骨最大長から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ149.41cm(Pearson、右)、(148.86)cm(Pearson、左)、148.66cm(藤井、右)、(148.71)cm(藤井、左)となり、低身長であるが、著しい低身長ではなく、西北九州弥生人なみの身長値である。ちなみに右側の尺骨最大長から藤井の式で身長値を算出してみると、154.24cmとなり、この値は高身長値であるが、縄文人はほかの時代の人々よりも、上腕骨の長さの割には前腕の骨(橈骨・尺骨)が相対的に

長いので、高身長値が得られる。

#### 5. 性別・年齢

寛骨や前頭骨が遺存していないので、寛骨や頭蓋からは性別ができない。後頭骨の最上項線や上項線の発達が見られないことと四肢骨が小さいことから、性別を女性と推定した。年齢は、観察できた冠状縫合とラムダ縫合の内外両板がまだ開離していることから、壮年と思われる。

#### 6. 特記事項

火を受けた思われ、黒光りしている肋骨片が1点存在する。変形や亀裂が認められないことから骨になってから、火を受けている。

### 要 約

熊本県山鹿市菊鹿町に所在する天岩戸岩陰遺跡から出土した人骨を再鑑定し、以下の結果を得た。

1. 1基の土坑墓から1体の、ほぼ埋葬状態を保った人骨が出土したが、ほかに新生児もしくは乳児のものと思われる肋骨1点と幼児の肋骨2点が認められたので、1975年におこなわれた発掘調査で出土したのは3体の人骨である。幼児を埋葬した墓坑は浅いので、簡単に後世の攪乱を受けやすい。本例も攪乱のために大部分の骨が失われたようである。
2. ほぼ埋葬状態で出土したのは壮年の女性骨である。
3. この人骨は、考古学的所見から、縄文時代晩期に属する人骨である。
4. 壮年女性骨(1号人骨)の頭蓋は攪乱によって大部分が失われており、頭型も顔面の特徴も鼻根部の形態も不明である。
5. 上下両顎の歯槽部の観察ができたが、上顎には風習的抜歯が認められた。抜去されていたのは上顎の両側犬歯である。
6. 壮年女性の四肢骨の保存状態は良好である。四肢骨は短く、細くてきゃしゃである。上腕骨体は扁平で、大腿骨の両側面は後方へ発達しており、柱状を呈していたが、大腿骨上部と脛骨には扁平性は認められない。
7. 上腕骨からの推定身長値は、149.41cm(Pearson、右)、(148.86)cm(Pearson、左)となり、低身長であるが、西北九州弥生人なみで著しい低身長ではない。

#### 《参考文献》

1. 金関丈夫・他、1952：熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘人骨について(会)。福岡医学会雑誌、43：pp.1032-1033.
2. 金関丈夫・他、1955：熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘の人骨について。人類学研究、2：pp.93-163.
3. 北条暉幸・他、1971：熊本県天草郡沖の原貝塚人骨とその遺物。人類学雑誌、79：p70.
4. 松野 茂・他、1967：肥後国上益城郡嘉島村六嘉かきわら貝塚出土人骨について。熊本医学会雑誌、41：pp.41-52.
5. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttgart：pp.429-597.
6. 松下真実、2009：沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀

- 要第4号(沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告(1)): pp.42-57.
7. 松下真実・他、2010: 沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨(2) 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第6号: pp.28-49.
  8. 松下真実・他、2018: 熊本市託麻弓削群第5区出土の縄文人骨。託麻弓削遺跡群2(熊本県文化財調査報告第331集): pp.195-204.
  9. 松下孝幸・他、1983a: 佐賀県唐津市菜畑遺跡出土の人骨。菜畑遺跡(唐津市文化財調査報告5): pp.388-398.
  10. 松下孝幸・他、1986: 熊本県小川町七ツ江カキワラ貝塚出土の縄文時代人骨。七ツ江カキワラ貝塚・竹の下貝塚(熊本県文化財調査報告第79集): pp.39-70.
  11. 松下孝幸・他、2009: 佐賀市東名遺跡出土の縄文早期人骨。東名遺跡群I第4分冊(佐賀導水事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5)(佐賀市文化財調査報告書第150集): pp.16-23.
  12. 松下孝幸・他、2016: 東名遺跡出土の縄文早期人骨の特徴とその意義。東名遺跡群IV(東名遺跡群総括報告書)(佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集、東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2)第1分冊【堆積層・遺構編】: pp.101-114.
  13. 松下孝幸、2016: 東名遺跡出土人骨の特徴。東名遺跡群IV(東名遺跡群総括報告書)(佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集、東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2)第4分冊【総括編】: pp.63-65.
  14. 松下孝幸、2017: 骨からわかる東名縄文人の特徴。佐賀市教育委員会編『東名遺跡』: pp.164-171. 雄山閣
  15. 内藤芳篤、1973: 沖の原遺跡の人骨。長崎大学解剖学第二教室。
  16. 内藤芳篤、1974: 天草・沖の原遺跡出土の人骨について(会)。解剖学雑誌、49: p207.
  17. 内藤芳篤・他、1978: 天岩戸岩陰遺跡出土の人骨について。菊池川流域文化財調査報告書(熊本県文化財調査報告31): pp.117-121.
  18. 小方保、1981: 縄文時代人骨。人類学講座5 日本人I: pp.27-55. 雄山閣
  19. 岡本辰之輔、1929: 肥後国下益城郡阿高貝塚人人骨の人類学的研究(頭蓋骨に就いて)第一報。人類学雑誌、44(第一附録): pp.1-26.
  20. 岡本辰之輔、1929: 肥後国下益城郡阿高村西阿高貝塚人人骨の人類学的研究(其の二、四肢骨について)。人類学雑誌、44(第三附録): pp.77-105.
  21. 大森浅吉・他、1957: 阿高貝塚人の下顎骨について。鹿児島医学会雑誌、30: 408-421.
  22. 大森浅吉、1960: 故南山大学教授中山英司博士により測定された阿高貝塚人骨の測定値。人類学研究、7(附録): pp.211-223.
  23. 大森浅吉・他、1960: 薩摩国出水貝塚出土(昭和29年)の人骨について。鹿児島医学会雑誌、33: pp.269-283.
  24. 鈴木文太郎、1918: 肥後轟貝塚河内道明寺にて発掘せる人骨に就いて。人類学雑誌、33: pp.59-66.
  25. 田幡丈夫、1930: 肥後国下益城郡阿高村西阿高貝塚人人骨の人類学的研究(其の三、骨盤骨に就いて)。人類学雑誌、45: pp.425-433.

---

\* Takayuki MATSUSHITA、\*\* Masami MATSUSHITA(特定非営利活動法人人類学研究機構)

表4 顔面頭蓋(mm、度)(Facial skeleton)

		天岩戸 1号人骨 女性
40.	顔長	-
41.	側顔長	-
42.	下顔長	-
43.	上顔幅	-
45.	頬骨弓幅	-
46.	中顔幅	[108]
47.	顔高	-
48.	上顔高	-
47/45	顔示数(K)	-
48/45	上顔示数(K)	-
47/46	顔示数(V)	-
48/46	上顔示数(V)	-
40+45+47/3	顔面モズルス	-
50.	前眼窩間幅	-
44.	両眼窩幅	-
50/44	眼窩間示数	-
51.	眼窩幅(右)	-
	(左)	-
52.	眼窩高(右)	-
	(左)	-
52/51	眼窩示数(右)	-
	(左)	-
54.	鼻幅	-
55.	鼻高	-
54/55	鼻示数	-
55(1).	梨状口高	-
56.	鼻骨長	-
57.	鼻骨最小幅	-
57(1).	鼻骨最大幅	27
60.	上顎歯槽長	52
61.	上顎歯槽幅	41
62.	口蓋長	45
63.	口蓋幅	68
64.	口蓋高	12
61/60	上顎歯槽示数	78.85
63/62	口蓋示数	151.11
64/63	口蓋高示数	17.65
72.	全側面角	-
73.	鼻側面角	-
74.	歯槽側面角	-

[ ]:片側×2

表5 下顎骨(mm、度)(Mandibula)

		天岩戸 1号人骨 女性
65	下顎関節突起幅	-
65(1).	下顎筋突起幅	101
66	下顎角幅	(102)
67	前下顎幅	46
68	下顎長	68
68(1).	下顎長	-
69	オトガイ高	31
69(1).	下顎体高(右)	30
	(左)	28
69(2).	下顎体高(右)	24
	(左)	23
70	枝高(右)	62
	(左)	-
70(1).	前枝高(右)	66
	(左)	63
70(2).	最小枝高(右)	53
	(左)	(55)
70(3).	下顎切痕高(右)	13
	(左)	-
71(1).	下顎切痕幅(右)	39
	(左)	-
71	枝幅(右)	34
	(左)	33
71a.	最小枝幅(右)	34
	(左)	33
79	下顎枝角(右)	(121)
	(左)	-
66/65	下顎幅示数	-
68/65	幅長示数	-
68(1)/65	幅長示数(右)	-
69(2)/69	下顎高示数(右)	77.42
	(左)	74.19
71/70	下顎枝示数(右)	54.84
	(左)	-
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	64.15
	(左)	(60.00)
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	33.33
	(左)	-

( ):推定値



表6 鎖骨(mm)(Clavicula)

		天岩戸 1号人骨 女性	
		右	左
1.	鎖骨最大長	-	-
2a	骨体彎曲高	-	25
2(1)	肩峰端彎曲高	-	-
4.	中央垂直径	7	7
5.	中央矢状径	10	10
6.	中央周	30	28
6/1	長厚示数	-	-
2a/1	彎曲示数	-	-
4/5	鎖骨断面示数	70.00	70.00
2(1)/1	肩峰端彎曲示数	-	-

表8 橈骨(mm)(Radius)

		天岩戸 1号人骨 女性	
		右	左
1.	最大長	-	-
1b.	平行長	-	-
2.	機能長	215	220
3.	最小周	39	37
4.	骨体横径	14	14
4a.	骨体中央横径	14	14
4(1).	小頭横径	20	(21)
4(2).	頸横径	13	13
5.	骨体矢状径	10	9
5a.	骨体中央矢状径	10	9
5(1).	小頭矢状径	21	21
5(2).	頸矢状径	13	14
5(3).	小頭周	67	67
5(4).	頸周	42	44
5(5).	骨体中央周	40	39
5(6).	骨下端幅	-	-
3/2	長厚示数	18.14	16.82
5/4	骨体断面示数	71.43	64.29
5a/4a	中央断面示数	71.43	64.29

表7 上腕骨(mm)(Humerus)

		天岩戸 1号人骨 女性	
		右	左
1.	上腕骨最大長	283	(281)
2.	上腕骨全長	276	(275)
3.	上端幅	45	-
3(1).	横上径	49	-
4.	下端幅	54	53
5.	中央最大径	20	18
6.	中央最小径	14	14
7.	骨体最小周	54	52
7(a).	中央周	57	54
8.	頭周	(131)	-
9.	頭最大横径	-	-
10.	頭最大矢状径	43	-
11.	滑車幅	-	-
12.	小頭幅	17	-
12(a).	滑車幅および小頭幅	-	-
13.	滑車深	-	23
14.	肘頭窩幅	28	27
15.	肘頭窩深	11	11
6/5	骨体断面示数	70.00	77.78
7/1	長厚示数	19.08	(18.51)

表9 尺骨(mm)(Ulna)

		天岩戸 1号人骨 女性	
		右	左
1.	最大長	246	-
2.	機能長	219	-
2(1).	肘頭尺骨頭長	243	-
3.	最小周	32	33
6.	肘頭幅	24	-
6(1).	上幅	32	-
7.	肘頭深	23	-
8.	肘頭高	18	-
11.	尺骨矢状径	11	11
12.	尺骨横径	16	16
S	中央最小径	11	10
L	中央最大径	15	15
C	中央周	43	43
3/2	長厚示数	14.61	-
11/12	骨体断面示数	68.75	68.75
S/L	中央断面示数	73.33	66.67

表 10 大腿骨 (mm)(Femur)

	天岩戸 1号人骨 女性	
	右	左
1. 最大長	-	-
2. 自然位全長	-	-
3. 最大転子長	-	-
4. 自然位転子長	-	-
6. 骨体中央矢状径	25	25
7. 骨体中央横径	21	21
8. 骨体中央周	72	74
9. 骨体上横径	25	-
10. 骨体上矢状径	23	23
15. 頸垂直径	-	-
16. 頸矢状径	-	-
17. 頸周	-	-
18. 頭垂直径	-	-
19. 頭横径	-	-
20. 頭周	-	-
21. 上顆幅	-	-
8/2 長厚示数	-	-
6/7 骨体中央断面示数	119.05	119.05
10/9 上骨体断面示数	92.00	-

表 11 膝蓋骨 (mm)(Patella)

	天岩戸 1号人骨 女性	
	右	左
1. 最大高	40	40
2. 最大幅	43	42
3. 最大厚	17	18
4. 関節面高	32	33
5. 内関節面幅	20	19
6. 外関節面幅	25	26
1/2 膝蓋骨高幅示数	93.02	95.24

表 14 推定身長値 (cm)(Stature)

	天岩戸 1号人骨 女性	
	右	左
Pearsonの式		(148.86)
上腕骨	149.41	
橈骨	-	-
大腿骨	-	-
脛骨	-	-
藤井の式		(148.71)
上腕骨	148.66	
橈骨	-	-
尺骨	154.24	-
大腿骨	-	-
脛骨	-	-

表 12 脛骨 (mm)(Tibia)

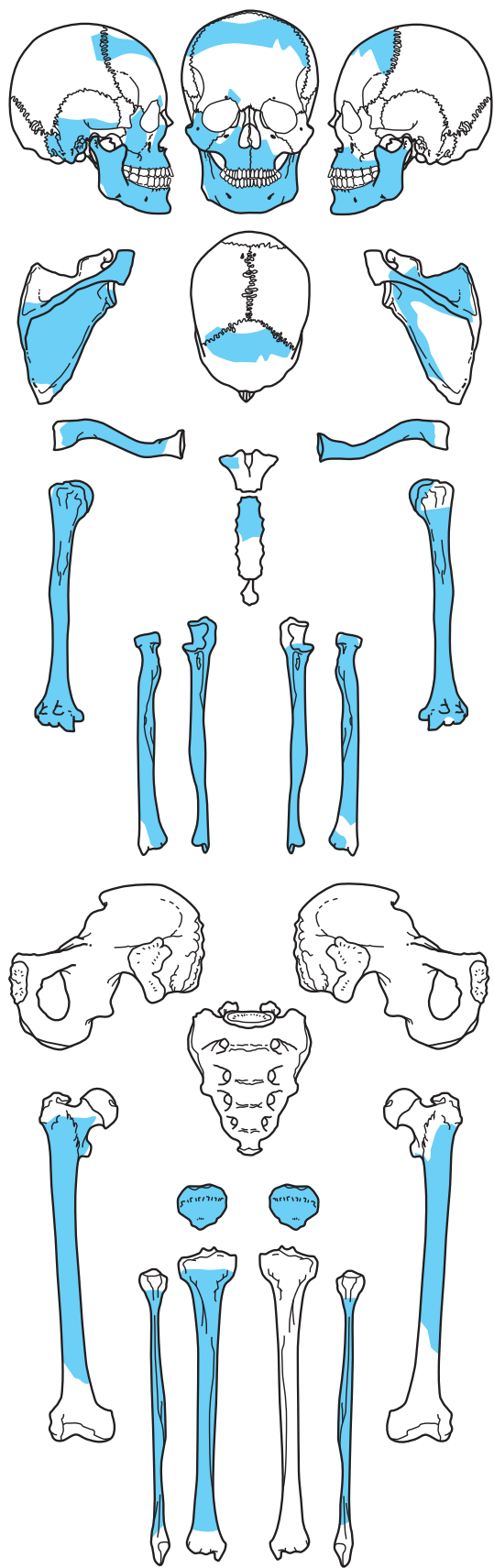
	天岩戸 1号人骨 女性	
	右	左
1. 脛骨全長	-	-
1a. 脛骨最大長	-	-
1b. 脛骨長	-	-
2. 顆距間距離	-	-
3. 最大上端幅	-	-
3a. 上内関節面幅	-	-
3b. 上外関節面幅	-	-
4a. 上内関節面深	-	-
4b. 上外関節面深	-	-
6. 最大下端幅	-	-
7. 下端矢状径	-	-
8. 中央最大径	23	-
8a. 栄養孔位最大径	28	-
9. 中央横径	18	-
9a. 栄養孔位横径	20	-
10. 骨体周	65	-
10a. 栄養孔位周	78	-
10b. 最小周	62	-
9/8. 中央断面示数	78.26	-
9a/8a 栄養孔位断面示数	71.43	-
10b/1 長厚示数	-	-

表 13 腓骨 (mm)(Fibula)

	天岩戸 1号人骨 女性	
	右	左
1. 最大長(右)	-	-
2. 中央最大径(右)	12	12
3. 中央最小径(右)	8	8
4. 中央周(右)	35	35
4a. 最小周(右)	27	29
4b. 頸横径(右)	10	10
4c. 頸矢状径(右)	9	9
4(1). 上端幅(右)	-	-
4(1a). 上端矢状幅(右)	-	-
4(2). 下端幅(右)	-	-
4(2a). 下端矢状幅(右)	-	-
3/2 中央断面示数(右)	66.67	66.67
4a/1 長厚示数(右)	-	-

表 15 中央周の比

	天岩戸 1号人骨 女性	
	右	左
橈骨/尺骨	93.02	90.70
橈骨/上腕骨	70.18	72.22
鎖骨/上腕骨	52.63	51.85
上腕骨/大腿骨	79.17	72.97
上腕骨/脛骨	87.69	-
脛骨/大腿骨	90.28	-
腓骨/脛骨	53.85	-



天岩戸岩陰遺跡 1号人骨(女性・壮年)

図2 人骨の残存図(アミかけ部分)

(Fig.2 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)



上顎骨・抜歯 (両側犬歯) (The extraction of bilateral C)

天岩戸岩陰遺跡 1号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No.1 from the Amanoiwakage site, young adult female)





上肢骨 (Bones of the upper limb)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

天岩戸岩陰遺跡 1号人骨(女性・壮年)  
(The skeleton No.1 from the Amanoiwakage site, young adult female)



肋骨 焼骨 (The rib) (cremated bone)